

議長(山口 一成君) 10番、南部武司君。

10番(南部 武司君) この定例会の一般質問では、オレンジバスの運行について、地上デジタル放送について、中学生海外派遣事業についての3点を質問いたします。

後半の質問者となっておりますので、同僚議員の質問と重複する部分もありますが、通告書どおりの質問をさせていただきます。答弁のほど、よろしくお願いします。

まず1つ目の質問ですが、オレンジバスの運行について伺います。

東員町議会では、以前、公共交通対策調査特別委員会を設け、コミュニティバスと三岐北勢線の有効活用について勉強しました。そして、平成19年12月11日付で、当時委員長だった私が最終報告書を提出しています。その報告書の内容ですが、再確認を含め、読み上げます。

三岐北勢線は高速化工事もほとんど終え、乗客の増加も見られる。念願となっている桑名駅乗り入れの早期実現を期待したい。オレンジバスについて、委員会の意見、要望をまとめ、今回の提言とする。

1、カネスエ、ラッキーマート、パークレジデンスへの乗り入れは危険であり、時間の短縮にもつながるので、乗り入れを中止すべきである。

2、サンシパークは行政区が桑名市であり、税金などのメリットもなく、乗り入れを中止し、来年度開業するイオンタウンへの運行を東西線の延長も含めて考えるべきである。

3、山田地区南側の運行ルートは道路幅も狭く、町道山田505号線藤川中橋の開通にあわせてルート変更を行うべきである。

4、朝夕の便は利用者も少なく、廃止も含め、考えるべきである。

5、いなべ整形外科のバス停は危険感があり、改善を要望する。

6、東西線の大木二軒屋地区への乗り入れを要望し、現在の北勢スーパー左折をやめ、郵便局まで直進、稲部小学校東を直進し、中村設計を左折、鳥取交差点右折のルートを提案する。

7、利用者のないバス停の統廃合も提言する。

という内容でした。提案した内容の多くが反映され、うれしく思っています。

2点目のイオンタウンについて、進捗状況の質問を通告しておりましたが、先日、同僚議員の質問と重複してしまいました。状況など、通告に基づく範囲での答弁を求めます。

また、本年4月から東西線に小型バスが導入されました。予算では審議した覚えがありませんが、この小型バスの詳細を伺いたと思います。この東西線は筑紫地区を通り、また鳥取八幡地区では旧道を通っています。運行後約2カ月の経過ですが、乗車人員はどうなっているのか、わかっている範囲での答弁を求めます。

以前、鷲田議員の質問で、フォローアップ調査から、コミュニティバスは高齢者の方の買い物や通勤、総合文化センターへの講座の参加を中心に利用されており、特に車をお持ちでない、自分で移動手段を持ってみえない高齢者や学生にとって、日常生活の足として欠かせない重要な生活交通機関になっています、との答弁がありました。乗降調査でも、買い物と病院と役場だと出ています。電車の利用者は思ったほどありません。しかし、バスのダイヤは利用者の意見が反映されているとは決して思いません。例を上げるならば、電車との接続や総合文化センターへの講座の参加者に配慮がないということです。そのことについて、何かお考えがあれば伺いたと思います。

運行実証は本年度で終了します。実証運行終了後も補助金があるのでしょうか。また、5年間は3社が運行していましたが、来年度からはどうなるのでしょうか。他の市町では県内・県外のバス運行业者が多く参入しています。東員町でも一般競争入札となれば、多くの業者からの参入希望があると思います。今のところ、全く白紙なのでしょうか。伺いたと思います。

以上、町長から答弁を求めたいと思います。

よろしく申し上げます。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) 南部議員のご質問にお答えをいたします。

まず、イオンショッピングセンターの現在の状況でございますが、先日、中村充男議員からのご質問に対しまして、副町長より答弁をさせていただきましたとおりでございます。昨今の経済状況とは申せ、地権者の皆様から土地をお借りして出店をいたすものであり、町といたしましても、税収や雇用創出の面からも、一日も早くの開業をいただくよう、お願いをいたしているところでございます。

次に、オレンジバスについてでございますが、オレンジバスは、平成17年度の運行開始から5年目を迎え、これまで毎年利用状況と利用実態の把握、システム評価を行いながら、運行ルートの見直しやダイヤ改正を実施してまいりました。

今年度からは利用者の少ない路線の利便性を図るため、従来の稲部線と東部線のルートを見直し、旧稲部線の車両を小型化し、東西線として運行を委託している三岐鉄道に車両をお借りし、鳥取の集落内や穴太、筑紫地区への運行を試みているところでございます。

新しく運行しました東西線と昨年度の稲部線の乗車人員を比較しますと、1日当たりの利用者人数は、昨年度の約5人から今年5月中旬までの実績では約11人となっており、現時点で評価するには尚早と思いますが、ルート変更による成果は出ていると感じられます。

次に、オレンジバスのダイヤは現在1時間に1本で設定しており、すべての時間帯を電車とうまく接続し、フォローできればいいのですが、困難な時間帯もありますので、現在は北勢線の朝の乗り継ぎを最優先とした運行ダイヤといたしております。

文化センター講座の開講時間とバスダイヤが合わないというご指摘も、以前から利用者の方からいただいておりますので、今年度からは講座の開講時間を遅らせることで、ご利用が可能となるよう調整をいたしております。

また、補助金につきましては、収支率が10%を超える路線について、県補助金の対象となっております。毎年補助率は低下してきていますが、実証運行終了後も運行経費の一部を補助金として交付される予定でございます。

オレンジバスは今年度で5年間の実証運行期間の最後の年となります。今年度は来年度以降の本格運行に向けて運行事業の検証を行い、また、委託方法についても、より効率的で安心して運行できるよう十分検討し、本格運行へ移行してまいりたいと考えております。

近い将来迎える高齢化社会に、オレンジバスは日常生活になくてはならない交通手段と考えておりますので、よろしくご理解をお願い申し上げます。

以上です。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) 答弁ありがとうございました。

来年度まで、もう6カ月しかないんですね。それで、まだ今の答弁を聞いてますと、どうなっているかということの具体性が出てないように思ったんですが、5年前の入札はプロポーザル方式で行われ、3社に決定したということです。来年度は1社なのか、または3社に行くのかどうなのかということ、具体的に、もう決めてもいい時期だと思うんですけど、その点、再度伺います。

それで、1社になれば、少なくとも1,000万円以上安くなるということ、ある業者から聞いております。また、コミュニティバスは当然運行は赤字ですが、来年度の運行について、幾らぐらいまでならいいと。それ以上、10%を超えたら補助が出るということをお聞きしましたが、路線の見直しなんかはどういうところで切るのか、あるいは1コイン100円を値上げするなどの考え、そういうことを検討したことはあるのかどうか、伺いたいと思います。

よろしく願います。

議長(山口 一成君) 藤井浩二総務部長。

総務部長(藤井 浩二君) お答え申し上げます。

まず、来年度の運行の関係でございますが、6カ月というご指摘でございますが、まだ9カ月ぐらいというふうに認識はいたしております。

それと、間もなく現在の実証運行についての結論が出てまいりますので、それをもとにしまして検討に入りたいとは思っております。今回もプロポーザルによるのか、一般競争入札によるのか、その辺は最終的には決定しておりませんが、ただ、私どもは、コミュニティバスの一番大事なのは、経済性も重要でございますが、人の命にかかわる事業でございますので、安心・安全を最も優先をさせていただきます。基本的には路線バスを運行していただいている、現在ですと3社でございますが、それは県内・県外を問わないということで、結論が出れば、それは構わないわけでございますが、その辺を重視しながら検討してまいりたいというふうに思っております。

それと、1社になれば1,000万円安くなるとか、このことにつきましては、まだ全然そういうふうな検討はいたしておりません。ただ、今現在乗っていただいている100円の運賃につきましては、いろんなご意見はあろうかと思いますが、特にご批判もないようでございますし、受益者負担としては適正な価格かというふうに考えてございます。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) 私も、1コインはずっと続けていただきたいと思ひまして、あえて質問したわけでございます。

先ほどの報告書に書いてありましたが、いなべ整形外科のバス停は大変危険です。金曜日の門脇議員の答弁にもありましたが、バス停までは北側両側とも計画があると理解していいのかどうか、またその部分だけでも先行してできることは可能かどうか、伺いたいと思ひます。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

まず、先行という形なんですけど、今年度、用地買収ということでございますので、用地が手当てできれば県の方へ一日も早くその部分だけでも、ということは要望させていただきます。

基本的にはいなべ整形までは南北というんですか、両側に歩道をとということでございますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) 先ほどの最終報告書で、北勢線についても少し述べました。昨年比、8万5,000人、3.9%の増加があったと新聞記事でもありました。桑名駅の延伸計画はどこまで進んでいるのか、また、今後の見通しはどうか、伺いたいと思ひます。担当課でも結構です。

議長(山口 一成君) 藤井浩二総務部長。

総務部長(藤井 浩二君) お答えを申し上げます。

北勢線の桑名駅の乗り入れと申しますか、桑名駅への延長でございますけども、当初、計画どおり実行する予定でございましたが、近鉄とJRとの負担金の持ち分について、国の方が、要項がきちっと定まっておらずで、今現在まで延びておるということでお聞きしております。幸いにも、この3月末で、負担割合について、大体目安が国の方で決まっております。まいりましたようございまして、現在のところお聞きしておりますのは、平成24年ぐら

いまでに路線の延長をして、線路の上に近鉄もJRも駅を持ってくるといような形で、今現在は伺っております。

以上です。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) ありがとうございました。

2番目の質問にいきます。

2011年7月24日から始まります地上デジタル放送について、幾つかの質問をしたいと思っております。

最近のニュースで、ケーブルテレビ局では、アナログ放送を7月24日以降も継続する旨の記事がありました。これは地デジ対応テレビの普及がおこなわれていることと、2台目、3台目のテレビにまで、なかなか地デジ対応に置きかえないからだとの記述があったと思っております。

東員町で受信できるラッキータウンテレビは、7月24日以降もアナログ放送を継続するのかどうか、まず伺いたいと思っております。

現在、地デジを無料で受信できるラッキータウンテレビですが、プラムトピックスはアナログ6チャンネルのみの放送です。地デジ12チャンネルでは放送されていませんが、いつから放送されるのでしょうか。

5月15日からグリーン家電製品を購入した方に、さまざまな商品、サービスと交換可能なエコポイントを付与するという、地デジ対応テレビの普及を図ることを目的に実施されました。しかし、高齢者の一人住まいのご家庭などでは、地デジ対応テレビの購入は難しいと思っております。今のテレビがそのまま利用できる地デジチューナーだけでも無料配布、または補助金制度を設けるといった考えは東員町にはないのでしょうか。また、それに取り組んでいる市町はありますか。

平成20年12月に同僚の川瀬議員の一般質問で、65歳以上の高齢者世帯、障がい者世帯、低所得者の方々の受信のための助成については、現在のところ、町独自では検討しておりません。今後は国の動向を見ながら考えますとの答弁がありましたが、変更なしと理解してよろしいのでしょうか。

以上、町長から答弁を求めたいと思っております。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) 南部議員からの、地上デジタル放送についてのご質問にお答えをいたします。

現在、国の重点施策として、テレビ放送のデジタル化が進められており、2011年7月24日までにアナログ放送は停波され、地上デジタル放送に完全移行されることとなっております。

総務省では、地上デジタル放送の周知、普及に向けたサポートセンターを全国の都道府県に設置し、三重県におきましても、平成21年2月に三重県テレビ受信者支援センター、通称デジサポ三重が開設されたところであります。

議員お尋ねの、7月24日以降のアナログ放送の継続につきましては、地上デジタル放送を既存のアナログテレビでも見られるようにと、電波を変換して各ご家庭に送出する、いわゆる「デジアナ変換」という放送方法であります。

これにつきましては、総務省の諮問機関である情報通信審議会が5月25日に中間答申をまとめまして、緊急避難措置として導入を促進することが適当と提言をしているところであります。しかしながら、この放送形態は放送期限を国が設けるため、いつまでも放送が変換されるわけではありません。

これにつきましては、日本ケーブルテレビ連盟東海支部にお話をお聞きしましたところ、ケーブルテレビ会社としては導入することに慎重な姿勢を見せております。導入につきましては、あくまでも各ケーブルテレビ会社の判断になりますが、株式会社ラッキータウンテレビは、現在のところ、導入をしない方向で検討しているとの回答を受けております。

しかしながら、デジタル放送につきましては、刻々と情勢が変化をしておりますので、その都度、最良の方策を検討していただけることと聞いております。

次に、プラムトピックスのデジタルのチャンネルでの放送はいつからか、とのご質問につきましては、現在はアナログ放送の6チャンネルで、1日5回、15分の放送枠で放送を行っているところであります。デジタル放送では地域のケーブルテレビのコミュニティチャンネルは12チャンネルを使用して放送され、7月中に放送を開始し、プラムトピックスについては、その放送枠の中で年内をめどに放送を検討したいとの返答を受けております。

また、高齢者一人住まいの家庭への地デジチューナーの補助につきましては、今年度より総務省が、NHK受信料全額免除世帯を対象とした地上デジタルチューナーの無料配

布事業を行うこととなっております。この事業では、申請のあった各家庭へ、総務省から業務委託を受けた業者が出向き、機器の接続を行い、視聴できるまでの支援を行うこととなっております。

これ以外に市町村が単独で行っているところとしましては、65歳以上の高齢者のみの世帯で、住民税非課税などの条件はありますが、東京の八王子市や千代田区などで行われていると聞いております。

また、今年度から熊本県水上村で地デジチューナーを購入した村民に補助金を出す制度を導入したとのことでございます。

本町といたしましては、単独で、こうした世帯や高齢者に向けて補助制度を設けることは現在検討しておりませんが、今後も国の動向を見すえながら考えてまいりたいと思いますので、ご理解いただきますようよろしくお願いをいたします。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) 答弁ありがとうございました。

NHKの受信料は2カ月で2,690円だったと思います。ラッキータウンテレビの契約を2011年7月以降幾らにするかということは、まだ具体的には決まってないのかどうか。以前は1,000円ぐらいを予定しているとお聞きしましたが、もしわかればお答えください。それと今、NHKの全額免除の話がありました。半額免除というのもあります。身障者の方とかそういうので、そういう方なんかの対応も、やはり東員町としては何もないというふうに、今の答弁では理解していいのかどうか、再度伺いたいと思います。

また、町内には多くのアパートが存在しますが、NHKの受信料は一家庭何台あっても一契約なんです。ラッキータウンの契約もそうなると思います。ですが、アパートの場合は1戸ずつ必要になってきますので、例えば30部屋、50部屋あるアパートでしたら、それだけの契約が必要になってくるわけです。大家の負担増にもつながると思いますが、何かいい考えというか、検討したことがあるかどうか、伺いたいと思います。

以上、お願いします。

議長(山口 一成君) 藤井浩二総務部長。

総務部長(藤井 浩二君) お答えを申し上げます。



まず、ラッキータウンの視聴料についてでございますが、極力、今現在、中部電力がお持ちの線を何とか安く譲渡できないかということで、いろいろ苦心をしております、そのことによってラッキータウンが経済的な負担が軽減されて、1戸当たりの受信料が下がればということで、いろいろご協議をさせていただいている途中でございますが、お隣の桑名市とかを見ますと、既に1,000円でスタートしておるところもございます、私どもとしては、最高でそこというふうな考え方ではおりますが、なるべく安くしたい。今現在のところ、お幾らということはお提示できないわけでございますが、そういう形で考えております。

それと、2点目のNHKの半額免除につきましては、NHKが打ち出しました全額免除に追随をしていくということで、以前、議員の方からお尋ねいただいたときも、国の動向を見ながらということで、その時はそういう姿勢もなかったわけでございますが、その辺を追随していきたい。

それと、当然、チューナーの価格も、どんどん価格破壊のように下がってきておるようでございます、どこまで経済負担がかかっていくのかなという検証もしなければいけないというふうな考え方でおります。

また、アパートについてのご質問でございます。これは平成21年3月の木村議員のご質問のときにもお答えをしているようでございますけれども、当然ながらアパートにつきましては、この時の答弁でございますが、ケーブルの引き込みが8万4,000円で、1戸当たり6,000円相当の費用負担がありまして、50室ぐらいあると30万円ほどかかるというふうにご答弁をさせていただいております。今、このことについては変わりはないというふうにご答弁をさせていただきます。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) 私、時々、ITなんかの難しい質問をするということで、今回もちょっとだけさせていただきます。

四日市のCTYは、NHKの場合、三重放送局の電波が流れております。ラッキータウンテレビは以前から名古屋放送局の電波です。普通の番組は全く何ら問題はありますが、6時40分ぐらいからの地方ニュースが全く異なっております。

我が家はアンテナを上げておりますので、NHKのメインチャンネルとサブチャンネルで、ちゃんと三重放送と名古屋放送を切りかえて見ることはできますが、今度、地デジになった場合、3つ電波がありますが、2つの電波とも放送されると理解していいのかどうか。ま

た、地デジとなった場合、プラムチャンネル、12チャンネルの場合は、東員町の場合だけサブチャンネルになるかどうか、それを伺いたいと思います。

議長(山口 一成君) 藤井浩二総務部長。

総務部長(藤井 浩二君) お答えを申し上げます。

これは確認をきちっとしなければならないのですが、多分、デジタル放送が開始されれば、名古屋の放送局と津の放送局、当然2つ見ていただく形になるというふうに考えております。

また、今現在の形もそうでございますが、東員町だけのエリアを限って放送させていただくことになろうかと思いますが、詳しく担当課長の方からお答えいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

議長(山口 一成君) 早川正政策情報課長。

政策情報課長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

現在も名古屋と三重と両方、放送を受けるような状況になっております。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) ちょっと最後の答弁、理解ができませんが、もう結構です。

3番目の質問にいきます。

就任後3カ月を経過しました教育長に、中学生海外派遣事業の現状と今後の取り組みについて、伺いたいと思います。

本年9月30日から10月7日の8日間、9回目となる中学生海外派遣事業が行われます。東員町のホームページでも募集要項が掲載されています。私は平成19年6月の定例会でも、ドイツ派遣について質問しています。

私は中学生が海外を体験できるすばらしい機会だと思いますし、反対するものではありません。以前の質問では、引率の先生以外の同行はやめ、もっと多くの生徒に、この体験の機会を与えることはできないかと言いましたが、今回も16名の中学生と引率の先生2名、校長先生と職員が同行するというスタイルに変更はないのかどうか、伺いたいと思います。

昨年は円安等高額な燃油サーチャージが必要でしたが、今年はかなり安くなったと思います。そこで、本年度の計画内容と予算を教えてください。

以前の質問では、旅行業者を入札により選んだとの答弁がありましたが、今年度の入札はどうなっているのでしょうか。あるいは、例年どおり同じ業者と理解しているのでしょうか、伺います。

海外派遣は毎年9月末となっておりますが、ドイツでは新学期が始まったばかりです。中学生の夏休み期間中に行ってはどうかと、以前お聞きしたことがあります。受け入れ先であるシェルナッハと、そのような約束になっているというような内容の返答があったと思います。しかし、中学生は勉強を休んで訪問するわけです。来年度から、訪問時期を夏休みに行うというような考えはないのでしょうか。

古い話ですが、青年団員が参加する青年の船というのがありまして、当時、26歳だった私は、幸いにも青年団ではなかったんですが、参加が認められ、若い青年団員と一緒に中国に行ったことがあります。貴重な体験をしてきました。このドイツ派遣事業でも、中学生に限らず、町内在住の高校生や有職者にも参加の機会が与えられないものかどうかと思ひまして、その考えを伺いたいと思います。

以上、教育長より答弁をお願いします。

議長(山口 一成君) 岡野譲治教育長。

教育長(岡野 譲治君) 南部議員の、中学生海外派遣事業についてのご質問にお答えをいたします。

1点目の派遣生徒と引率の人数については、昨年と同様で変更はございません。

2点目の本年度の計画と予算についてであります。まず、計画につきましては、昨年、一昨年と7日間であったものを、本年度はシェルナッハでのホームステイを1日ふやし、8日間といたしました。内容といたしましては、昨年の行程にオーストリアのザルツブルク市の見学を追加しております。また、予算であります。昨年はユーロ高や原油高の関係で、1人当たりの経費は約41万円でした。本年度は8日間の日程にし、昨年度と同程度とみております。

3点目の旅行業者についてであります。昨年までと同じ業者でお世話いただくこととしております。

4点目の実施時期につきましては、以前にも夏休み中に実施してはどうか、とのご指摘をいただいているということではありますが、ドイツではその時期、新しい学年になる前の長期休業中であり、教職員の異動等もあり、現地の学校にとって最も受け入れが難しい時期となります。ドイツ側からは、受け入れる時期として、4月から5月がよいということ、昨年同行いたしました職員が聞いたそうですが、この時期は、逆に私ども日本側が難しい時期となります。その他、学校行事など、さまざまな条件を考慮いたしますと、9月下旬から10月上旬が最もよい時期ではないかなと考えております。

最後に、5点目の派遣の対象についてであります。本事業の対象者を中学生以外へ拡大することにつきましては、現時点では考えておりませんので、よろしくご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) 答弁ありがとうございました。

以前の教育長に入札のことを聞いたことがあるんです。その時の答えは、請負業者につきましては、前年度までは実行委員会が過去の実績を評価し、1社による随意契約としておりましたが、本年度からは契約手続の改善を図るため、町の契約業務にならい、5社による見積徴収を実施いただきました。その結果、前年度まで契約しておりました業者が落札したので、ご報告申し上げますという答弁をいただきました。

初めから今回の業者と決まっています、このような入札をしたと私はとったもので、あえて質問したわけなんです。このように、本来でしたら見積もりをとってやるべきが本当だと思うんですが、何か、シェルナッハにつきましては特別の事情があるような感じで伺っております。それで、日にちだけでも変わらないかということ、私、以前、課長の方にも聞いたのですが、今の答弁で、4月、5月、あるいは9月ということを知りました。

インターネットで日本国内の中学生の海外派遣を調べてみますと、やはり夏休みが本場に多いのです。行き先としても、ヨーロッパは余りなく、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカが多くあります。

先日、中村議員から中国という提案もありましたし、私も近隣の方がいいということも一時は思っておりましたが、やはり一度しか行かない外国です。それと先般、海外派遣に行った中学生と、その親を対象にしたフォローアップ調査というか、アンケートをとられたことがあったと伺いまして、その結果を見せていただきましたら、参加した生徒全員が有意義

だったと答えております。そしてまた、ドイツがよいと、ほとんど全員が答えております。その中で日数が短いとか、夏休みがよいとの意見もあったように思います。保護者の意見もほとんど変わらず、貴重な経験になったなど、好意的な意見が多かったように思いました。

今後も継続すると思いますが、もし見直すとなれば何か、また逆に、ドイツ人ではなくて外国人中学生の受け入れ等、東員町として検討したことはあるのかどうか、伺いたいと思います。

議長(山口 一成君) 岡野譲治教育長。

教育長(岡野 譲治君) 外国人の生徒の受け入れについては、現在のところは考えておりません。ただ、ドイツとの信頼関係等もいろいろできてきます。シェルナッハでも、議会の方々に来ていただいたということがありますので、将来どういう形になるかはわかりませんが、いろんな可能性を考えてみたいと思っております。

それから見直すということで、前の中村議員にもお答えしましたが、来年度で10年がたちます。第5次総合計画等にのっとりながら、人づくり、まちづくりの観点で、いろんな面で十年一昔といえますから、いろんなところを経験しておりますので、改善できるところは改善し、見直すところは見直していきたいと思っております。

ただ、やはりシェルナッハ、3日間のホームステイの体験は、子どもたちにとっては大変貴重な体験であり、ドイツというところを訪問する価値は、私はあるのではないかなと思っております。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 南部武司君。

10番(南部 武司君) ありがとうございました。

中学生海外派遣に参加した生徒の保護者から、搭乗時間の長さ、ホームステイが短いというような意見もありましたが、今回は1日延びて4日になったということで喜んでおります。

参加する中学生のほとんどは初めての海外だと思います。目にするもの、肌で感じるものすべて新鮮です。中学生としての感じ方と大人の感じ方は違って当たり前です。私は今年だけで3回、中国と韓国に行っております。近くの国はいつでも行けます。個人ならば、ドイツへもっと安く、もっと上手に行く方法もあるにはあります。しかし東員町として、ドイツ

海外派遣事業を継続し、大陸的な大きな視野の持てる国際化時代に対応できる人材づくりを続けていただきたいと思います、私の一般質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。